

## 共助 地域で守る!

災害が発生した場合、火災の同時発生や交通網の寸断などにより、行政による救助や支援が間に合わないといった事態が予測されます。このような状況の中、頼りになるのは『地域の助け合い』です。「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えのもと、冬の災害に備えて地域でできる防災を行いましょう。



### 例 1. 避難経路を確保しておく

冬季は積雪などにより、避難場所までの通行が困難になる場合があります。地域で協力して道路の除雪を行うなどして、避難場所までの経路を確保しておくよう心掛けましょう。

### 例 2. 消火栓付近の除雪をしておく

冬季は暖房器具の使用により、災害時の火災発生率が高くなります。消火栓は、消防署が除雪を行っていますが、大雪時には除雪が遅れる場合もあります。地域で協力して、近くの消火栓付近を除雪しましょう。

## 西区の自主防災組織結成率は89.5%

西区では現在、286ある町内会などのうち256が自主防災組織を結成しています。これは、10区の中で5番目に高い結成率となっていますが、市全体の結成率の89.9%を下回っています。地域において組織的な防災活動ができることは、災害時に大きな強みとなりますので、ぜひ、これを機に自主防災組織を結成し、結成率100%を目指しましょう。

## 市の支援策について

防災  
リーダー  
研修

防災  
資機材の  
助成

防災訓練  
の指導

札幌市では、町内会などによる自主防災活動を推進するためさまざまなサポートを行っています。

## 公助 行政が守る!

平成23年に発生した東日本大震災では、防寒用具の用意ができなかった避難者が、避難場所で寒さを耐え忍んだという事例がありました。この教訓から、東北地方よりも寒冷的な気候である札幌市では、これまで以上に下記のような防寒対策に重点を置いた「札幌市避難場所基本計画」を今年度内に策定する予定です。



### ●災害時要援護者の防寒対策

高齢者や障がい者、乳幼児などの災害時要援護者が、災害発生直後から避難場所で暖をとれるよう、移動式灯油ストーブを各避難場所に備蓄しておく。それらのうち収容人数の多い市立小中学校には各2台備蓄する。

### ●避難者全員に寝袋と毛布を

避難場所避難者（最大想定110,666人）全員に、寝袋と毛布を配給可能な体制をとる。さらに防寒性を補うため、クッション材と一体化した寝袋や、体からの放熱を防ぐアルミ蒸着シートも用意する。



区役所で、防災に関するパンフレットの配布や、札幌市防災DVDの貸し出しを行っています。ぜひ、ご活用ください。

区役所では、消防署や土木センターなどの関係機関と協力して、地震や洪水といった災害への対応を行います。防災に関するご相談がありましたらお気軽にご連絡ください。



西区役所地域安全担当  
井上 知典 職員